

令和元年度 心の健康委員会事業概要

【委員会の開催】

- (1) 期 日 ・ 第1回 6月19日(水)
・ 第2回 11月18日(月)
- (2) 内 容 「心の健康」講演会の計画と事例研修

【「心の健康」講演会】

- (1) 期 日 令和元年12月9日(月)
- (2) 会 場 不二羽島文化センター みのぎくホール
- (3) 講 師 日本福祉大学 名誉教授 竹中 哲夫 氏
- (4) 演 題 「長期・年長のひきこもる人の理解と支援
— 青年期から中高年期におよぶ支援の概観と実践—」
- (5) 参加者 100名
- (6) 講演概要 (資料より一部抜粋)



長期・年長のひきこもる人の理解と支援—青年期から中高年期におよぶ支援の概観と実践—
—この講演の基本的なこと—

- 1) この講演では、報告者の限られた実践を基礎に、近年増加が指摘され支援現場でも大きな課題になっている長期・年長(高年齢)のひきこもる人の理解と支援について述べる(本報告の場合、20歳代後半から30歳代、40歳代の人を中心になる)。
- 2) 人それぞれの多様な生きる状態を尊重する立場に立つならば、長年ひきこもる人の生き方も人生を送る一つのあり方として尊重されなければならないと言える。
- 3) そこで、地域のひきこもり支援ネットワークや適切な社会資源を活用しつつ、
 - ①社会参加の希望のある人には、ゆっくりと社会参加の道を歩む支援を行い、
 - ②社会参加とひきこもる生活の間で葛藤している人には、その人にふさわしい(どちらの道も選択できる)柔軟な支援を行い、
 - ③当面社会参加の希望のない人には、その人が納得し安心できる生き方を共に考え気長に支援を行う必要がある。
 - ④このように支援関係者は、ひきこもる人の多様な状態を踏まえて、支援関係者・ひきこもる人・家族との相互理解・同意・協力関係を築き、長期的視点から多面的で当事者それぞれに届く支援を進めていく必要がある。一言にまとめると「当事者によって異なる多様なニーズに、できるだけ対応した柔軟な支援を目指す」ことである。
- 4) 上記の事柄を前提に、この講演で取り上げるテーマを紹介する。
 - ①まず「ひきこもる人や家族の思い」、「ひきこもりが長期化する事情の整理」、「今日(これから)

のひきこもり支援の全体像」の理解などについて取り上げる。

- ②さらに、「ひきこもりの定義」と「ひきこもり支援の目標」の整理、「ひきこもる人との支援関係の形成」、「親子の出会い直し」、「支援者と本人の出会い」、「支援のための多様な手法の紹介（就労支援やライフプラン支援を含む）」、「家庭内暴力への対応」等具体的支援に触れる。
- ③その上で、「ひきこもり支援の基本段階や支援のマネジメント」について検討する。
- ④以上を踏まえ、「主として長期的支援の事例」を時間の許す限り紹介し、いわゆる大人のひきこもりの理解を深めたいと思う。
- ⑤最後に、長期化・年長化するひきこもり支援の取り組みの支えになる考え方として「ネガティブ・ケイパビリティ（負の能力）」、「幸運な偶然」について触れてみたい。

5) 以上に述べる考え方の基盤には、「**共生社会の理念**」が想定される。共生社会とは、人びとが相互に支え合いながら、かつ主体的意思を尊重し合いながら共に生きていく（生きていける）社会であると考えられる。誰もが排除されることのない社会である。このような社会像（社会のあり方）を目指すことも私たちの課題であると思う。

■参加者の感想

- ・介護保険を利用しておられる利用者や在宅で医療を受けておられる高齢者の訪問をするとひきこもりの息子さんや娘さんを抱えて同居されている方々がおります。まさに「8050問題」さらに「805020問題」の家庭もあります。少しでも知識を得るために参加しました。ひきこもりとその支援についてよく理解できました。
- ・本日の講演は、ひきこもり支援についてでしたが、学校における様々な生徒の支援に役立つ話でした。ひきこもり、不登校をはじめ、様々な課題を抱える生徒と日々ふれ合いますが、問題だけにとらわれがちです。生徒一人一人を見て関わり、「その子」の気持ちを理解できるよう努め、いつか訪れる幸運な偶然のためにも、急がず、あきらめず支援していくことが大切だということがわかりました。
- ・ひきこもり（不登校）の支援に戸惑うことばかりです。訪問して会うことができる子は、一方通行でも声をかけることができるが、応答がないこともある。家庭によっては、訪問も受け入れられないこともある。模擬事例も大変参考になった。最後の何かの偶然で光が差すこともあるかもしれない。希望をもち「待つ」姿勢とタイミングを考えていきたい。大変、良い講演会でした。
- ・不登校からのひきこもり支援の大切さを実感しました。また、発達障害からのコミュニケーション能力や対応も今後さらに考えていかなければならないと感じました。ライフプラン等も考えた支援のマネジメントについて参考になりました。
- ・多くの事例を紹介していただき、分かりやすかった。竹中先生の長期の支援姿勢をお聞きし、少しホッとしました。何とか学校にいる間に成果を出したいという思いから、積極的支援になりすぎていたかもと反省する場面も…。先生の事例の中に「幸運な偶然」という言葉が幾度か出てくるのですが、偶然ではなく必然だと思いました。先生のあきらめない長期支援、寄り添った支援の賜物かと思いました。気長に急がず、私も取り組みたいと思います。力をいただきました。